

# SYNEGIC OFFICE

シネジック株式会社新社屋



有機的な形状の大きな屋根は、三角形のCLTパネルと平面トラスを金物を使用せず、プレカットと現場でのビス(シネジック社製)接合という合理的な施工を試みた



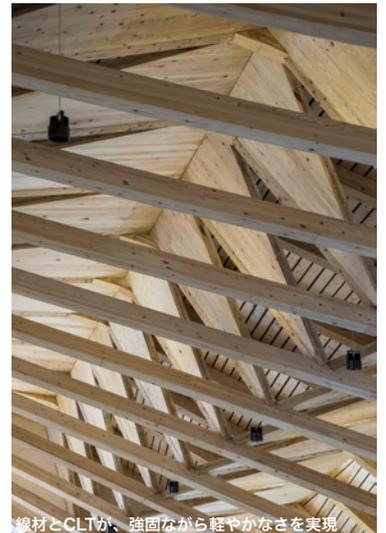
段々と屋根に成長して行く様な架構



三角形のCLTが独自の意匠性と構造を実現させる



架構に手が触れる程低い身体的な空間



線材とCLTが、強固ながら軽やかなさを実現

©平井広行



経年変化する銅板屋根は新たな街のシンボルとなる



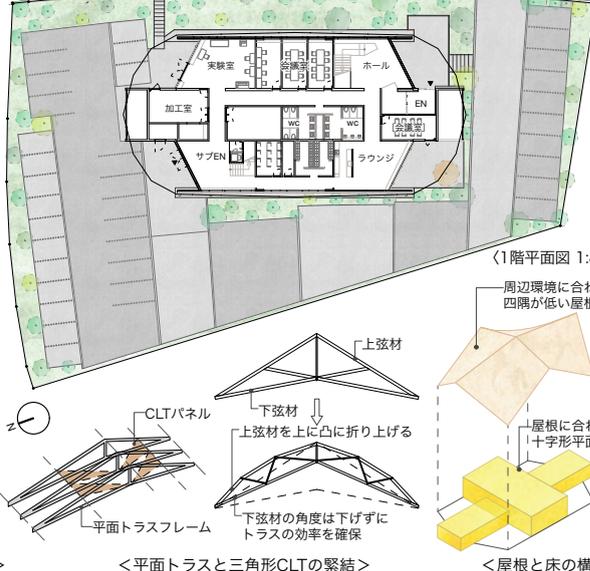
トラスとCLTパネルが美しく陰影をつくり出す

## 空間に参加する屋根架構

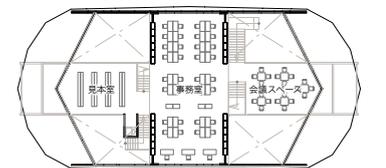
本計画は構造用ビスの製造をしているシネジック株式会社の新社屋新築計画である。本物件では木造の可能性を広げる先進的な建築の提案が求められた。シネジックでは一般的なデスクワークに加え、実験や外部の研究者との協働によりものづくりの業務も行われているため、社員同士の働き方が影響し合い、活発な対話や連帯感が生まれるような場をつくりたいと考え、18mの大スパントラスによる大屋根の一体空間に多様な場が遍在する計画を行った。屋根の構成として、105幅の住宅用集成材による平面トラスを傾斜させながら並べ、その平面トラスを三角形のCLTパネルで緊結することで柔らかな有機的な空気感を作り出している。平面トラスの角度が1つずつ違うことに対し、CLTパネルの採用で特注を要する金物による接合を回避し、工場によるプレカットと現場でのビス接合という合理的な工法を提案した。これにより壁や床に使われることが多く重い印象のCLTパネルを立体的な屋根にデザインを工夫し軽やかに用いる事で、CLTに意匠と構造の両義性を持たせた新たな使い方を実践した。



<平面トラス姿図>



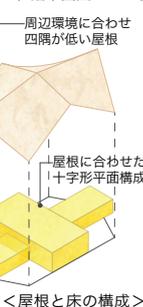
<平面トラスと三角形CLTの緊結>



<2階平面図 1:800>

**【建築概要】**  
**【所在地】**：宮城県富谷市  
**【用途】**：事務所  
**【規模】**  
 敷地面積：2407.30㎡  
 建築面積：633.75㎡  
 延床面積：834.81㎡  
 構造：木造（軸組工法・CLT）一部鉄骨造  
**【設計・監理】**  
 建築：UENO architects/長谷川欣則・堀越ふみ江  
 構造：ホルツストラ/稲山正弘 + KMC/蒲池健  
 設備：ジーエヌ設備計画（機械）  
 タクトコンフォート株式会社（電気）  
 外構：SfG landscape architects / 大野暁彦  
 家具：807 DESIGN / 濱名剛  
**【施工】**  
 建築：八光建設 / 橋本正博  
 木工事：オノツカ / 小野塚真規

<1階平面図 1:800>



<屋根と床の構成>